

第七回 塩津能の會 九州公演

令和2年11月14日(土)午後1時30分開演 (12時30分開場)

大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号 TEL 092-715-2155 http://www.ohori-nougaku.jp

【鑑賞券】

正面特別指定席/10,000円
正面(指定席)/7,000円
脇正面(指定席)/5,000円
中正面(指定席)/4,000円
正面(自由席)/6,000円
脇正面(自由席)/4,000円
中正面(自由席)/3,000円

【電話予約・お問合せ】

塩津能の會事務局 TEL/FAX:03-3330-6803

【オンラインチケット申し込み】

http://kita-noh.com/ticket (クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會オフィシャルサイト http://www.shiotsu-noh.com

詳しくはこちらへ



主催:一般社団法人 塩津能の會

【会場案内】



■西鉄/バス 黒門バス停...下車徒歩3分 大濠公園バス停...下車徒歩3分
■地下鉄 大濠公園または唐人町...下車徒歩7分

能とは?

能とは舞(動き)と謡(歌・セリフ)による舞台演劇です。しかし、現代の演劇の大半がドキュメンタリー、つまり時間を圧縮した物語であるのに対し、能は逆ドキュメンタリー、衝撃的な一瞬の出来事を引き延ばしたものです。一瞬とは人の出会い、別れ、生死などをいい、これらの背景にあるさまざまな物語を、観る人それぞれが心の中に描きます。これによって能は百人が観れば百通りの見方ができる舞台芸術です。つまり隣の人との感想が違ふことが常で、そこが難解と言われるところなのです。しかしこれこそが能の持つ魅力です。

九州(福岡)での喜多流の歴史

大濠能楽堂を擁する福岡は喜多流にとって由縁の地です。流祖・喜多七太夫長能が黒田藩の庇護を受けたことで開流に繋がりました。また明治維新の動乱期にも喜多流の大先輩、梅津只圓が黒田藩のお抱え能楽師として困難を乗り越え、福岡の能楽の隆盛を築きあげました。大濠公園能楽堂の中庭にあるのは只圓翁の胸像です。この由縁の地福岡に、またひとつ能楽・喜多流の新しい灯を燈すために、熊本ゆかりの能楽師塩津哲生・圭介が「塩津能の會」九州公演第七回目を催します。日本が世界に誇る伝統芸術、能楽の精華を、文化豊かに薫る福岡の地に、そして広く九州の地へとあらたに拡げることを目指して活動に取り組んでまいります。

文化継承!

和風建築が減少し、畳の部屋がないという住まいも多く見られ、正座という礼儀作法すら出来ない、知らない人達が増加している現状にはとても不安を感じます。昨今文化発展向上の声はありながら、伝統文化の衰退が目につきます。能界の先人達も能の魅力の後世に伝えようと、明治維新も敗戦の困窮時もひたすらにその道を全うして来られました。喜多流の九州内での催しが激減した現状を何とか再興し、先人の思いを継ぎ伝えることが現代に生きる私達の使命だと思います。

第七回 塩津能の會 九州公演

おはなし

塩津 圭介

舞囃子

山姥

塩津 哲生

大鼓 白坂 保行
小鼓 幸 正佳

太鼓 吉谷 潔
笛 相原 一彦

地謡

佐藤 陽
内田 成信
金子敬一郎
佐々木多門

休憩二十分

能

天鼓

シテ(老父王伯)
天鼓の霊

塩津 圭介

ワキ勅使 御厨 誠吾

大鼓 白坂 保行
小鼓 幸 正佳

太鼓 吉谷 潔
笛 相原 一彦

間狂言(勅使の従者) 吉住 講

後見
塩津 哲生
佐々木多門

地謡

工藤 義彦 内田 成信
狩野 祐一 金子敬一郎
佐藤 陽 長島 茂
渡辺 康喜 粟谷 充雄

終了予定四時過頃



「天鼓」前シテ(老父王伯)



「天鼓」後シテ(天鼓の霊)

あらすじ

山姥

信州善光寺参りをする都の遊女・百萬の一行が上
路越の難路をたどるうち、にわかには暗くなり途方に
暮れていたところ、今宵の宿を貸そうと一人の女が
呼びかける。女は、百萬が百萬山姥と呼ばれる当り
芸山姥の山巡り」の曲舞を聞きたいと告げる。
女は山姥の化身であった。「どうせ謡つなら、月の出
てを待て。私の真の姿をお見せしよう」と言い捨て
その姿は消え去る。
夜、深山幽谷の景色を眺めつつ、山姥が現れる。恐怖
を抑え、百萬は曲舞を謡う。妄執の心を抱き、永遠に
山を巡り続ける山姥。名残を惜しみつつ、幸や谷を
翔り、その姿は消え失せる。
今回はクワイマックスの山姥の舞の部分と舞囃子
(能の一部を紋付袴姿で囃子と地謡と共に演じる形式)
でご覧いただきます。豪快、壮大、親和、変幻自在の
技を尽くす曲舞をお楽しみください。

あらすじ

天鼓

後漢の時代、天鼓という青年が天から降った鼓を愛
していたところ、その妙音が噂となり、帝はこれを
召し上げようとしたが、天鼓は惜しんで鼓を抱き山
中へ逃げた。
発見された天鼓は勅命に背いた罪により漏水の底
に沈められてしまう。しかし、内裏に運ばれた鼓は
音を立てないので、親子ならばと父・王伯が鼓を打
つよう召喚される。

我が子を死罪とした帝の前で、万感の思いで老父が
子の形見の鼓を打つと、鼓は妙音を立てた。これを見
た帝は親子の情愛を哀れみ、金銀財宝を下賜した
上、天鼓の霊を管弦講で弔う。
すると、天鼓の霊が現れ、歡喜の舞を舞い鼓に戯れ
ながら消えてゆく。

前場、老父王伯の我が子を想う悲痛な心情と、後場、
天鼓の霊の純真無垢な舞の対比をお楽しみください。



塩津 哲生



塩津 圭介

1945 喜多流能楽師塩津清人の長男 熊本市出身。
1950 「桜川」の子方で初舞台。
1957 「経政」にて初シテ。
1959 十五世喜多流宗家喜多喜楽師のもとへ内弟子修行のため上京。
1971 「道成寺」を抜き独立。
1983 日本能楽協会会員、重要無形文化財総合指定。
1986 平成天皇即位の礼で「石橋」子獅子を勤める。
2006 芸術選奨文部科学大臣賞受賞。
2007 観世寿太夫能楽賞受賞。
2008 紫綬章受賞。
塩津能の會主宰。
札幌・東京・福岡・熊本・大分・大分・竹田各地に哲門会主宰。

1984 喜多流能楽師塩津哲生の長男として東京に生れる。
1987 喜多流能楽會にて、初子方「隅田川」を勤める。
1997 大分県竹田市塩津清人記念能楽台落成能にて初シテ「田村」を勤める。
2004 若者の「若者」による、若者のための能「若者能」をたちあげ、以後毎年公演。
2008 東京学芸大学教育学部卒業。
2009 APU立命館アジア太平洋大学非常勤講師に就任。
喜多流青年能にて「道成寺」を抜き、独立。
塩津能の會にて「石橋」子獅子を抜き、独立。
2013 福岡・熊本・竹田・行橋・大分・東京・札幌・帯広にて一般の方向への稽古を
毎月開催指導にあたる。